

奈良の駅 シリーズ Vol.04



てんり
駅名：天理駅



天理駅舎とコフファン

【駅舎概要】

所在地：天理市川原城町 816
区域区分等：第一種住居地域
構造・規模：RC 造 2 階建
建設時期：昭和 40 年

【沿革】

明治 31 年 5 月：奈良鉄道の丹波市
駅として開業
明治 38 年 2 月：関西鉄道が奈良鉄
道を合併。関西鉄道の駅舎となる
大正 4 年 2 月：天理軽便鉄道（現在
の近鉄天理線）の天理駅開業
昭和 38 年 5 月：国鉄丹波市駅が天
理市（てんりし）駅に改称
昭和 39 年 10 月：近鉄天理駅が移転
昭和 40 年 9 月：国鉄線高架化に伴
い線路付け替え・駅移転。天理駅
に改称し近鉄の天理駅と駅統合



当初の天理駅の様子（県立図書館情報館提供）

■天理市・天理駅の歴史

天理市は昭和 29 年山辺郡丹波市町・朝和村・福住村・二階堂村・添上郡樺本町・磯城郡柳本町が合併して発足。天理教の名を冠した宗教都市である。天理駅は天理市中心部に位置する。

天理駅のホームは 2 階で、4 ホームの内 2 ホームは天理教の団体専用ホームとなっている。現在の駅舎は昭和 40 年に区画整理事業にともない統合移転したものであり、それ以前は線路が現在位置から東へ 100m ほどのところを南北に走っており、当初の駅舎は現在の天理市民会館の位置にあった。実際に旧線跡と思われる部分は田町付近に始まり、歩いてみると途中に当初と思われるレンガ積みの橋脚を見ることができ、北大路通りをさらに北上し田部町の現在プラスチック工場があるあたりで合流していたようである。

面白いのは旧線の合流地点で線路に向かってみると急にカーブしており、ここから新路線を曲げていったのだという歴史を感じることができる。元々別々であった日本国有鉄道と近畿日本鉄道の天理駅が統合されて新しい天理駅が設置された経緯から、地元では「天理総合駅」とも呼ばれており、天理総合駅前交番など一部の機関名にもこの名が使用されている。駅の西側の田井の庄池公園には往年の蒸気機関車 D51 が静態保存されている。



天理周辺旧路線図

■天理駅前広場

2017 年に現在の新しい駅前広場「コフファン」が完成した。天理市には約 1600 基もの古墳が残っており、佐藤オオキ率いる nendo デザインは古墳のたたかたちを組み合わせ起伏に富んだランドスケープを作ること、山々に囲まれた奈良盆地の地理的特徴を表したという。主構造物はプレキャストコンクリート（PC）造、放射状の 36 分割された PC 部材を現場において圧着接合している。広場内には総合案内所、カフェレストラン、ショップ、遊具、屋外ステージが備えられている。



田部町旧線路橋

広場の名称「コフファン」は、デザインの主要モチーフである「古墳」と、「フン〜♪」と思わず鼻歌を歌いたくなるような心地良さを提供したいという想いや、天理市民が「フンッ」と他人に笑顔で自慢できるような場所となって欲しいことから付けられたもの。

その思いの通り、地域の各行事やイベントの場として、子供たちの遊びの場として大いに活用されて親しまれている。特にトランポリンは大人気でオープン時間内は常に子供たちが飛び跳ねており、活気を感じさせてくれる。

【記：住まいまちづくり委員会 平川善久】

新年のご挨拶



令和6年 新年のごあいさつ

(一社) 奈良県建築士会会長
米村 博昭

令和6年の新年を迎えご挨拶申し上げます。会員の皆様におかれましては、新型コロナ禍も少し落ち着き日常が戻ってきたのではないのでしょうか。しかし、世界を見ますと、ロシアのウクライナ侵攻やパレスチナとイスラエルの紛争などがあり、建築材料の値上がりや不安定な供給などの事態が発生しています。そして、建築基準法の大改正の施行が2025年に迫り、DXやBIMなどデジタル機器への対応も求められています。そのため、建築士の業務には多大な影響が生じており、皆様におかれましても、ご苦労されているのではないのでしょうか。

(一社) 奈良県建築士会では、昨年6月の「建築士の日」記念事業として、「万葉まほろば線沿線における駅のありかた一みんなの居場所を考えよう」のシンポジウムを天理市川原城会館で開催しました。また、「(場)を生むデザイン賞—建築と人。力ある場とは何か。」の募集を現在行っています。建築そのものだけでなく、地域の人々による活動と建築が相乗して生まれる魅力的な空間を現代の社会が求めていると考えて、これらの活動を行っています。

私たちは、SDGs(持続可能な開発目標)の活動に積極的に取り組む必要があります。(公社)日本建築士会連合会が作成しました「建築士の行動指針」には、SDGsの17項目に「地域を生かし、建築・まち・むらの風土・文化の持続性、建築文化の創造に貢献しよう」と「少子化・高齢化・労働人口減少社会において、地域コミュニティの再創造に貢献しよう」の2項目が追加され、これらを進めています。

地震や風水害の甚大な被害が、全国各地で毎年のように繰り返し発生しています。吉野地方の土砂災害など奈良県も例外ではありません。防災・減災、復旧・復興に建築士の果たす役割は益々重要であります。(一社)奈良県建築士会では、日本建築士会連合会の「地震風水害対策用 建築士会事前防災活動指針」等をテキストに勉強会を継続して開催しています。

そのほかに、奈良県と木材事業者などと連携して

建築物の木造化の推進にも取り組んでいます。「発注者向けの手引き」を作成し、「木造建築設計技術者の養成講習会」にも積極的に参加し研鑽しています。建築基準法の改正や建築物の「省エネルギー基準の適合義務化」などへの対応も進めていかなければなりません。空家の問題については、市町村と連携を図り、空家相談や利活用の推進を進めております。本県には、文化財に指定された建築物だけでなく、歴史的建築物が多数残されており、これらの活用を図り地域活性化を推進することが重要と考えています。

最後に、会員の皆様には、建築に関する研修など本会の活動にご参加をいただくとともに、建築士という資格を地域貢献に活かしていただければと思います。また、建築士会の活動を多くの方に知っていただくためと、新しい会員を募るための「入会の案内」パンフレットを新しく作成しました。今年も引き続き本会の活動にご支援いただきますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



令和6年 新春ご挨拶

奈良県知事

山下 真

明けましておめでとうございます。

昨年は日本でも世界でも観測史上最も暑かったり、ロシアによるウクライナ侵略に加え、イスラエルとハマスの間でも戦闘が勃発したりするなど、世界の未来に大きな不安を感じざるを得ない年となりました。今年は世界にとっても、奈良県にとっても、県民の皆さまにとっても素晴らしい年となることを強く祈念いたします。

奈良県の魅力と課題

私は、昨年5月3日に県知事に就任させていただき、全身全霊で奈良県を発展させていくことをお約束いたしました。そのためには、奈良県の誇るべきところは守り、問題のあるところは変えていく必要があると申しました。

私たちの先人が守り抜いてきた世界に誇る歴史

新年のご挨拶

文化遺産、豊かな自然や景観、災害の少なさ、大都市近郊の利便性など奈良県の有する魅力は、これを守り、さらに発展させていかなければなりません。一方で、①「夫が外で働き、妻が家を守る」との意識を持つ県民の割合が全国1位（2015年）、女性の就業率が全国最低（2020年）など仕事と子育ての両立のしにくさ、②全国39位と低い一人当たりの県民所得（2020年）、全国44位の延べ宿泊客数（2022年）など県内経済の低迷、③全国47位の道路整備率（2021年）などインフラ整備の遅れ、といった奈良県の課題は、早急に改善していかなければなりません。

奈良県民は消極的？

「大仏商法」という言葉があります。国語辞典（小学館大辞泉）によれば、「奈良の大仏に参詣する客が立ち寄るのを待つだけで、進んで客を集める努力をしない奈良商人の消極性」を示す言葉だそうです。このような県民性が本当に存在するのか、そして、それが上記の奈良県の課題の遠因になっているのか、それはよく分かりません。しかし、いずれにせよ、上記の課題を解決するには、政治家、行政職員、商工関係者、そして県民が前向きな意欲を持ち、課題解決のための有効な手法を探り、そしてその手法を即座に実行するという営みを繰り返していくほかありません。本県も否応なく地域間競争の波にさらされており、手をこまねいていけば発展から取り残され、人口流出が加速するだけです。

守ることと変えること

知事に就任して8カ月が経過しました。党派や経歴が歴代知事と異なるので、県政が混乱しないか心配される方もおられたと思います。しかし、県議会議員や県職員、そして県民の皆さまのご理解とご協力のお陰で、ここまではスムーズに県政の漸進的改革が進んで来たと思います。

「変えられるものを変える勇気を、変えられないものを受け入れる冷静さを、そして両者を識別する知恵を与えたまえ。」というアメリカの神学者の有名な言葉があります。人生にも通じる名言ですが、守ることと変えることを冷静に切り分け、引き続き県政の舵取りを慎重に進めてまいります。



令和6年 新年のご挨拶

奈良市長

仲川 げん

新年あけましておめでとうございます。

（一社）奈良県建築士会の皆様におかれましては、令和6年の新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より本市の建築行政に、ご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、5月には新型コロナウイルスが季節性インフルエンザと同じ5類感染症に位置付けられ、私たちの生活を一変させた未知のウイルスとの闘いにも、ようやく終止符が打たれました。本市でも再び国内外から多くの観光客が訪れ、コロナ禍以前の賑わいや活気を取り戻しております。また昨年12月には、「古都奈良の文化財 世界遺産登録25周年」の記念すべき年を迎えました。社寺に見られる素晴らしい建築など、はるか昔の職人たちが成し遂げてきた偉業が、いま再び国内外の皆様にご覧いただける喜びを、ひしひしと感じております。

さて、本市は「共働き子育てしやすい街ランキング2022」において関西1位、全国6位に選ばれました。令和4年度の「奈良市子どもセンター」開設に引き続き、隣接する柏木公園のキッズパークのオープン、また本年度は庁舎南側広場の改修工事を行っており、完成すれば親子で自由に遊べる芝生広場となります。子育て親子の交流や遊び場である「子育て広場」も市内に40カ所以上設置されており、今後さらに子育て世帯はもちろんのこと、すべての市民の皆様にとって住みやすく優しいまちづくりを推進してまいります。

また、本市ではこのたび「Old History, New Discovery」というスローガンを制定しました。直訳すると「古い歴史と新発見」、言い換えると「温故知新」となります。この言葉のように、皆様方には、古都の景観や文化を生かしながら新しい技術を取り入れた、安心で安全なまちづくりのために更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様にとりまして、新しい年が幸多き素晴らしい一年となりますよう心からご祈念を申しあげまして、年頭のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



令和6年 新年のご挨拶

榎原市長
亀田 忠彦

令和6年の年頭にあたり、一般社団法人奈良県建築士会の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃より本市の建築行政にご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私事ではございますが、昨年10月の市長選挙において市民の皆さまの温かいご支持をいただき、二期目の榎原市政の舵取り役を務めさせていただくことになりました。その責任の重さを実感するとともに、改めて身の引き締まる思いです。振り返れば、一期目につきましては新型コロナウイルスとの戦いであり、ワクチン接種や経済対策をはじめ様々な対応が求められました。そういった状況下において、培ったことを今後の市政運営において活かし、地域経済を活性化させるため、市政に全力を尽くしてまいります。

さて、建築行政に目を向けますと、高度成長期に建築された建築物の老朽化や、2008年をピークに急激な人口減少による必然的な住宅需要の減少が原因の一つである空き家の増加が問題となっているなか、新型コロナウイルス感染症による経済活動の停滞により建築物の建替えや改修に要する投資能力低下の問題が重なり、建築ストックの対策が課題となっています。これは、本市においても例外ではなく、今後、ますます、市民の生活環境に影響を与えることが予想されます。こうした問題を解消するため、既存ストックの活用を図るための耐震診断や耐震改修又は建築物の用途変更などにつきましては、建築士としての建築物に関する知識や実務を行った経験が不可欠であると考えております。

また、奈良県及び本市において実施している、被災建築物応急危険度判定訓練や、違反建築物防止週間の啓発活動においても全面的にご協力ご参加いただき、ありがとうございます。今後予想される大規模地震後の二次災害防止の対応あるいは、適正な建築ストックの確保のためにも重要な活動であると認識しております。

榎原市は、歴史・自然に恵まれ、交通の利便性も

高く、大きなポテンシャルを秘めたまちです。榎原市をより一層魅力的なまちにする。そして、安全・安心なまちにするため、これからも建築士の皆さまのご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

結びに、貴会のますますのご発展と会員の皆さまのご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



令和6年 新年のごあいさつ

生駒市長
こむらさき まさし
小 紫 雅 史

あけましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

市長として3期目を迎えた昨年は、物価高騰が長期化・加速化する1年でした。皆様の不安や負担を少しでも軽減できるよう、学校給食費の無償化や、さきめしいこま+プレミアムキャンペーン、市内医療機関・福祉事業者への給付金支給、公共交通事業者への支援金交付など、本市独自の施策を実施しました。

また、環境問題への取組として、都市の低炭素化に関する施策を総合的に推進することが効果的な区域を脱炭素先行地域として2地区選定し、省エネ断熱改修補助等の省エネルギーフォームによる電力以外の脱炭素化に取り組むなど果敢なチャレンジを行ってきました。

住宅分野においては、市内全域の空き家調査を進めており、7年前の調査と比較して空き家が100棟以上減少しました。これは、官民連携で空き家の賃貸・売却を支援する「いこま流通促進プラットフォーム」などによる空き家対策を実施してきた成果と考えています。

今年も、将来都市像「自分らしく輝けるステージ・生駒」の実現に向けて、より多様で豊かな暮らしが叶うまちへと進化する施策を戦略的に進めます。

柱の一つは、まちの拠点形成と経済の活性化です。昨年は、拠点形成に向けた取組みが大きく前進した年でした。学研高山地区第2工区では、先行開発地区として地権者の皆様と共に「学研高山南エリアまちづくり協議会」を設立。また、学研北生駒駅北地

新年のご挨拶

区では、まちづくり構想の実現に向け、事業区域を決定し市街化編入手続きに着手。生駒駅南口周辺地域では、公民連携による「エリアプラットフォーム」を構築し、「生駒駅南口みらいビジョン」を策定するなど、市民、地権者、事業者の皆様と共に公民連携で、事業化に向けた取組みを進めてまいりました。

本年は、これらの動きをさらに本格化させ、多様な住まい方、暮らし方に対応する都市づくり、拠点形成に向け、事業推進してまいります。合わせて創業支援や企業誘致を進め、地域経済循環の向上を目指します。

二つ目は、地域共生社会の実現に向けた取組です。買い物や健康づくりなど地域に必要な活動を自律的に生む「まちのえき」づくりをはじめ、市長就任以来、一貫して人と人の関係性づくりと地域参画の促進に取り組んできました。10月には全国サミットの開催も予定しています。デジタルや民間のサービスも最大限活用しながら、すべての世代や主体の協創によるまちづくりを加速します。

「暮らす価値のあるまち」としての都市ブランドの確立に向けて、ご支援とご協力をよろしくお願いします。本年が皆様にとって素晴らしい1年となりますよう心からお祈り申し上げます。



令和6年 新年のご挨拶

奈良県県土マネジメント部
地域デザイン推進局建築安全推進課長
前田 巧

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

奈良県建築士会会員の皆様におかれましては、日頃から本県の建築行政にご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行となり、社会経済活動もコロナ禍前の状態に戻ってきているなか、貴会会員の皆様におかれましては、様々な活動に、より一層注力・奔走されたことと存じます。

一方で、混沌とする世界情勢、働き方改革、デジタル社会の実現など、社会を取り巻く環境が大きく変化しており、我々の建築業界も例外ではなく、これらの変化に対応していく必要があります。

建築関係法令においては、脱炭素社会の実現に向けて、省エネ対策の加速と木材利用の促進を図るため、令和4年6月に建築基準法及び建築物省エネ法が改正され、段階的に施行されているところです。今年4月には、建築物の販売・賃貸における省エネ性能表示や防火規制の合理化が行われます。そして令和7年4月には、皆様の業務に大きく影響する、省エネ基準の義務化や4号特例の見直しが予定されております。改正法の円滑な施行に向け、現在、国主催の講習会や動画配信、マニュアルの公開が行われていますので、これらを活用し法施行に備えていただきたいと思います。

また、令和3年7月に静岡県熱海市において、大雨に伴う盛土の崩落によって大規模な土石流災害が発生し、甚大な人的・物的被害が生じました。盛土等による災害から国民の生命・身体を守る観点から、「宅地造成等規制法」を抜本的に改正した「宅地造成及び特定盛土等規制法」（通称：盛土規制法）が昨年5月26日に施行されました。盛土等により人家等に被害を及ぼしうる区域を規制区域として新たに指定するとともに、宅地、森林、農地などの用途に関わらず、危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制しようとするもので、宅地造成等の際に行われる盛土だけではなく、単なる土捨て行為や一時的な堆積についても規制することとされています。現在、県では、盛土規制法に向けて規制区域の指定の準備を進めているところです。

本県では、県民の皆様の安全・安心の一層の確保のため、建築基準法等の改正内容の周知・啓発及び、盛土規制法に係る施行に向けた検討などに取り組んで参ります。そして、貴会が参画されている各協議会の活動としましても、地震時の建築物被害の軽減を図るための耐震化への取り組み、被災建築物・宅地応急危険度判定に係る実施体制の整備、災害時の被害や危険性が増す恐れのある違反建築物対策を引き続き進めて参ります。

これらの取り組みを円滑に進めていくためには、建築士会会員の皆様のお力添えが不可欠と考えておりますので、引き続きのご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、奈良県建築士会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

謹 賀 新 年

(一社)奈良県建築士会参与会々員

株式会社 浅沼組 (奈良営業所) 奈良市三条本町4-32 中室ビル ☎0742-26-5225 東口 勝彦	株式会社 奥村組 (奈良支店) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-5001 芳村 昌秀	株式会社 尾田組 奈良市高畑町738-2 ☎0742-26-6011 尾田 安信
株式会社 鍛冶田工務店 (奈良本社) 御所市150-3 ☎0745-65-2131 鍛冶田 八彦	株式会社 崎山組 橿原市南八木町2-3-35 ☎0744-22-2353 寄山 和之	清水建設 株式会社 (奈良営業所) 奈良市大宮町7-1-33 奈良センタービル ☎0742-34-1510 正井 洋
大日本土木 株式会社 (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-3071 藤垣 淳	株式会社 中和コンストラクション 桜井市桜井281-7 ☎0744-42-9313 大浦 晃平	株式会社 中尾組 桜井市桜井553-1 ☎0744-42-3567 中尾 隆成
中村建設 株式会社 奈良市三条大路1-1-48 ☎0742-33-1001 中村 光良	株式会社 平成建設 橿原市曽我町352-4 ☎0744-22-3800 吉崎 真仁	松塚建設 株式会社 宇陀市榛原福地610-1 ☎0745-82-1371 井上 清利
村本建設 株式会社 北葛城郡広陵町大字平尾11-1 ☎0745-55-1151 南條 秀和	株式会社 森下組 吉野郡大淀町檜垣本1589 ☎0747-52-3535 森下 秀城	株式会社 山上組 奈良市鳥見町1-1-3 ☎0742-44-0063 山上 武宏

(50音順)

謹 賀 新 年

役員・有志

井上建築工房アルス 大和郡山市北郡山町158-6 大和第3ビル204 0743-51-0286 井 上 慶 治	岡本設計 五條市本町1-7-30 0747-22-0282 岡 本 光 弘	大和ハウス工業株式会社 大阪市北区梅田3丁目3番5号 06-6131-8550 折 目 貴 司
小松原工務店 宇陀市菟田野松井170-1 0745-84-4128 小松原 寛俊	株式会社ワールド設計 磯城郡田原本町三笠152-10 0744-33-1616 阪 口 龍 平	小林建築事務所 天理市柳本町1519 0743-66-2511 庄 田 尚 代
大勝建設株式会社 天理市九条町377-5 0743-66-2569 中 嶋 孝	株式会社中和設計 橿原市今井町2丁目1番14号 0744-25-5356 中 谷 淳 一	株式会社中西構造設計 橿原市新賀町235-6 橋本ビル3階 0744-24-6537 中 西 治 夫
株式会社伸構造事務所 香芝市瓦口2166 0745-71-2200 中 本 明	株式会社樹谷設計 奈良市西ノ京町101番地の1 0742-34-1461 中 元 綱 一	株式会社福本設計 奈良市大宮町4-281-1 新大宮センタービルディング 0742-34-2800 西 峯 隆 司
有限会社センザイ不動産 一級建築士事務所 天理市杉本町354-1 0743-63-7268 福 田 成 生	松塚建設株式会社 宇陀市榛原福地610-1 0745-82-1371 松 塚 幾 善	公益社団法人 奈良まちづくりセンター 奈良市中新屋町2-3 0742-26-3478 米 村 博 昭

(50音順)

全国大会の前日 (26 日) に、第 11 回全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会総会が開催されました。事前に「静岡市役所本館」で集合、講話・解説を聞き、まち歩きを行いました。

この建物は昭和 9 年 (1934 年)、浜松市出身の中村與資平 (なかむらよしへい) の設計により建設、RC4 階建ての上にあおい塔と呼ばれているドームが印象的な建物で登録有形文化財です。



(新庁舎 (左) と本館)

外壁は象牙色のタイル貼り、各所にテラコッタが用いられています。中村與資平は国内外に多くの作品を残しました。静岡市内では静岡銀行本店 (昭和 5 年)、静岡県庁本館 (昭和 12 年) の設計に携わっています。



(静岡県庁 本館)

講話では「建築家、中村與資平と静岡市庁舎」と題して常葉大学土屋和男教授が、また「家康×原風景＝富士山²～駿府城下町はどのように造られたか～」と題して、塩見寛氏より解説がありました。15 時より「まち歩き」です。本館にある議事堂を見学、重厚な内装となっています。



(静岡市庁本館 議事堂)

静岡県庁別館の 21 階に昇れば富士山や駿府城の発掘場所、静岡市内が一望できます。

七間町通り、道路元票、呉服町通り防火建築帯を見学しながら、総会会場に移動しました。



(県庁別館から見た駿府城址)

総会では全国 7 ブロックより活動内容の報告。協議会運営

委員役員改正、災害時における被災確認調査及び技術支援等に関する協力協定、被災歴史的建造物の調査・復旧方法の対応マニュアルの紹介。

アンケート調査結果報告。そして、「国登録有形文化財全国所有者の会」寺西理事長の挨拶がありました。その後、意見交換の場として懇親会が催され、和やかな雰囲気で終了しました。



(札ノ辻 石碑)



(赤レンガ倉庫)

全国大会当日 (27 日) は、朝から駿府城公園を見学、天守台発掘調査場所や、家康公手植のミカン、東御門、巽櫓を見て、全国大会の会場に向いました。



(駿府城天守発掘調査場所)

私が参加した全国大会セッションは、昨年まで別に開催されていた、景観まちづくりと歴史まちづくり／ヘリテージマネージャー大会の 3 つの部門を、関連が深いことから合同で意見交換する場となりました。また全国登録文化財所有者の会からも参加をされました。

事例発表は先ず「中野町を考える会」堀内秀哲代表から、「東海道真ん中～中野町 (なかのまち) 景観保全と伊豆石の蔵再生の取組み」が報告されました。



(発表者 3 名)

東海道と天竜川が交差する交通の要衝として賑わった町の歴史文化を繋いでいくために、各家庭に眠る古い写真を集める活動を開始、「昔なつかしの写真展」を開催、住民の関心を得、古地図や古文書が発見される等、新たな歴史発見の契機となりました。町の歴史を感じられるよう

に案内板を10か所設置し、小学校の郊外授業で「まち探検授業」として、子供達がこの町のDNAを引き継いでくれる運動を継続されています。かつて天竜木材を江戸に運んだ廻船が、帰路に駿河湾の荒波を渡るため伊豆石を積み帰ったことで、伊豆石を使用した蔵が6棟現存しており、「浜松地域遺産」の認定を受け、伊豆石に関する取り組みも進



(中野町を考える会 HP 伊豆石蔵)められています。中野町の活動は、古い写真を集めるところから始まり、住民と価値の共有、子供を巻き込んで次世代に繋げる活動を行っているところが感銘を受けました。

続いて「NPO 菊川まちいき」大橋隆夫理事長から、「明治時代の赤レンガ製茶工場遺構が解体の危機を越えて菊川のランドマークへ」と題して報告されました。

菊川駅南土地区画整理事業が進められ、区画内にある赤レンガ倉庫をシンボリックな建物として残すことが決まっていたが、区画整理終盤になると解体への方向転換が市から言い渡されました。危機を持った市民らは保存会を設立して保存活動を進めますが、区画整理事業の完了が遅れる、レンガ倉庫に価値がない等様々な圧力を受けたようです。



しかし、保存活動を進める中で、専門家の学術調査の結果、茶葉の合組の痕跡が見つかり明治時代の製茶工場で全国的にも極めて珍しく (菊川まちいき HP 赤レンガ倉庫) 貴重な文化遺産だと判り、「NPO 菊川まちいき」を発足し、土地を買取り、市の譲歩を得て保存に成功、現在では登録有形文化財となり市も巻き込んだ活動をされています。菊川まちいきの活動は、奈良県の JR 畝傍駅舎保存活動と通じるところがあり、無償譲渡を受けると言っていた市が方針変更で受けないと決めたことで、保存活用を進める会が発足し、現在は市に対して署名と活用提案を提出しています。保存を成し遂げたことは素晴らしいと思いました。

続いて「NPO 旧五十嵐邸を考える会」片瀬江氏から、「まちなみと建物を住み継ぐ・・・～清水区蒲原地区の東海道を活かした市民のまちづくり～」と題して報告をされました。

静岡県には東海道53宿のうち22宿があります。その東海道のまちなみ、景観づくりとして、蒲原宿なみなみの会ができました。



活動はまちなみを形成 (NPO 旧五十嵐邸を考える会 HP) する様々な要素を大切に住み継いでいくための「資源」として作成する「まちなみ資源台帳づくり」、各家に伝わる工芸品などを展示する「みせのまギャラリー」、宿内の歴史ある家の住人に「住んでくれてありがとう、そしてこれからも住み続けてください」と、一方的に感謝状を贈ることや、住まい方の魅力を「くらし編」「かたち編」にまとめ、「まちなみ憲章」として発行、また「たてもの相談」や「町並みゼミ」も開催されています。

その町にある「旧五十嵐邸」の市民による保存活用の取組みについても報告され、子供を対象とした「蒲原宿子ども案内人養成講座」「旧暦であそぶ～七夕・七草がゆ」「昔の暮らしを楽しむ～夏のしつらい展・餅つき・しめ縄づくり」等、旧五十嵐邸を活用して楽しみながら実施しているそうです。

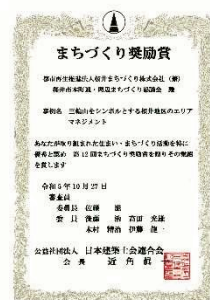
蒲原地区の活動は、子供に町の案内人をさせるためには、子供自ら町を調べ、話すという勉強で町を知ることになり、次世代に繋げる活動として素晴らしいと思いました。

コーディネーターは地元の塩見寛氏が務められ赤川真理・森崎輝行各コメンテーターからの意見を頂き、時間をオーバーしてセッションは終了しました。



夫々の活動には物語が (コーディネーター コメンテーター) あり、価値を見出し、人々を巻き込み、共有し、活用し、次世代に繋げる対策も含め、多彩な活動を継続的に熱い想いをもって進めておられると感じました。

当会桜井支部メンバーが関与している桜井駅南地区のエリアマネジメント事業が、一次選考7事業に選ばれ、全国大会にて発表された結果、日本建築士会連合会近角会長から、まちづくり奨励賞が渡されました。



【記：奈良ヘリテージ支援センター 紀本澄男】

お知らせ

●奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会

(更新及び新規登録)

開催日:令和6年1月11日(木)

会 場:奈良公園バスターミナル レクチャーホール

※会場へはなるべく公共交通機関をご利用下さい。

●令和6年新年大交歓会のご案内

日 時:令和6年1月26(金) 18:30~

場 所:ホテルリガーレ春日野 2階飛鳥の間

●浸水被害住宅対策マニュアルに関する勉強会

開催日:令和6年2月16日(金) 15:00~

場 所:奈良県産業会館3階会議室C

参加費:無料

詳しくは同封の「開催のご案内」又は事務局へお問い合わせください。

●近畿建築士会協議会青年部研修事業(予定)

テーマ:藤森照信×千利休 in 堺

開催日時:令和6年2月10日(土) 9:00~16:30

開催会場:1部 街歩き(堺市役所前 9:00~12:00)

2部 後援会(フェニーチェ堺 13:30~16:30)

申込期間:令和6年2月3日(土)まで

開催内容:詳しくはHPをご覧ください。

●近畿建築士会協議会女性部研修事業(予定)

テーマ:近畿の「魅力ある和の空間」巡行

ちょこっとお散歩 南大阪教会見学と登録有形

文化財「寺西家阿倍野長屋」に学ぶ

開催日時:令和6年3月2日(土) 12:30~16:30

開催内容:詳しくはHPをご覧ください。

●入会 金山 純 様(奈良支部)

よろしくお願いします。



日本建築士会連合会会長 表彰を受賞されました。

澤田 貢さん(郡山支部)

藤山久仁子さん(高田支部)

おめでとうございます。

編集後記 新年あけましておめでとうございます。

令和6年もいよいよスタートします。今回は時事問題を語りたいと思います。昨年は紛争(戦争)が世界のあちこちで起こり、民間人に被害が及び、特に幼い子供たちの映像には、たまらなく悲しくなります。私は戦争を知らない時代に生まれ、日本では平和が当たり前だと思っていました。戦争とは何なのか?平和とは誰もが笑顔で明日の希望を夢見ることが出来る世の中だと思います。人間は本来戦う生き物だという説もありますが、私は人間は幸福を望む生き物だと思います。私事ですが、昨年孫が生まれやっと寝返りが出来るようになりました。孫の未来を考えると、平和で争いのない、信頼・助け合い・お互いを高め合う世界になってほしいと心から望んでいます。しかし現実は何も出来ない自分がはがゆいです。【記:情報・広報委員 小松原寛俊】

1月

1日(月) 元日・年末年始休業(〜3日)

4日(木) 仕事始め

20日(土) 近畿建築祭和歌山大会

26日(金) 新年大交歓会



2月

7日(水) 監理技術者講習

10日(土) 近建協・青年部研修事業

16日(金) 浸水被害住宅対策マニュアルに関する勉強会



士 会 奈 良 通巻 653 号

令和6年1月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会

〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館

電話:0742-30-3111 FAX:0742-33-4333

<https://nara-kenchikushikai.or.jp/>

info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 米村 博 昭

編 集 (一社) 奈良県建築士会 情報・広報委員会



情報・広報委員会

委員長	福田 成生		
副委員長	伊藤 吉郎	小西 直樹	
委員	吉村 晃人	平田 正裕	
	門脇 直也	溜谷 剛	
	永友 翔	松尾 憲治	
	上柿 範兼	鈴木 茂	
	小松原寛俊	洞 尚樹	
	押部 誠		



1級建築士試験関西エリア合格実績 No.1

令和4年度 1級建築士 学科+設計製図試験

関西エリア
ストレート
合格者
占有率

58.7%

関西エリアストレート合格者 271名中 /
当学院当年度受講生 159名(令和4年12月26日現在)

※関西エリア(2府4県:大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県)

令和4年度 1級建築士 設計製図試験

関西エリア
合格者
占有率

50.6%

関西エリア合格者 625名中 /
当学院当年度受講生 316名(令和4年12月26日現在)

他の追随を許さない唯一無二の
「講習システム」と「合格実績」

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会[No.1表示に関する実態調査報告書]に基づき掲載しております。 ※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の授業提供者、過去受講生は一切含まれておりません。
※都道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、令和4年度建築士学科試験に合格し、令和4年度建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

学生/元受講生/提携企業社員/他講習生対象
受験生応援キャンペーンがスタート



合格実績No.1の総合資格学院が
受講料を大幅に引き下げます

詳細は
コチラ
→



開講講座

建築士/建築・土木・管工事施工管理/設備・構造設計1級建築士/建築
設備士/宅建/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター

お問合せ先

奈良校 TEL:0742-30-1511